

実用書

Atelier Michaux + 華雪

華雪 かせつ

書家。1975年京都生まれ。東京在住。
1998年、立命館大学文学部哲学科心理学専攻卒業。
10歳より書家を志し、1992年より個展を中心に活動。
漢字一文字を書く「一字書」という表現方法を30年近く
続けている。古代中国から数千年の時を生き延びてきた文字の
力、その文字を書くことの意味を追求し、独自の作品を制
作するアーティスト。
ワークショップも数多く手がけている。
<https://www.facebook.com/kasetsu>

アトリエミシヨ

京都府京都市北区紫野上門前町 99

市バス「東高繩町」停より 西へ徒歩6分

市バス「大徳寺前」停より 北へ徒歩13分

市営地下鉄烏丸線北大路駅1番出口より 西へ徒歩15分

<http://atelier-michaux.com>

お問い合わせ・お申し込み

kasetsu.ws@gmail.com

5月28日(土) 夜 17:00-19:30

名前を書く

「実用の書」の初回は一番身近な字である自分の名前
を書くことから始めます。
筆をはじめとした様々な筆記具を用いて、自分の名前
をひらがな・カタカナ・漢字、それぞれで書き分けて
みます。そこから自分の名前の字とそこから感じるイ
メージを確かめてみることで、字を書くこととそこに
あるイメージの結びつきを体感します。

7月30日(土) 昼 14:00-16:30

闘斗を書く

二十代のころはアルバイトをしていた料理屋のおかみ
さんは身近なひとに贈り物をするとき、半紙をぎっ
取り出し、そこに「そ」と書き、包んでいました。「そ」
は粗品の「そ」です。ひらがなで小さく細くそつと書
かれたその字は、おかみさんの気持ちが表れているよ
うで二十年経つたいまでも印象に残っています。
「お礼」「お祝い」「寿」そして「そ」。
思いを込めて字を書くということを改めて考えます。

子遊婆田愛希字

毎日々書く字、百一。字、身体に取り込むと、あとは手のおもむくまま、筆先ですらすらと自動筆に線を描いていく。そこに自分はいらない。これは果たして「自分の字」なのだろうか。そんな漠然とした思いを、華雪さんに手渡してみた。美しさや上手さではなく、自分の性に触れる字を生む力は、おれ、誰にでも備わっているのではない。自分を表す字、字、字、人に贈る字、持ち運ぶ字、毎日々華雪さんに先導してもらいながら、今年の手始めに種類の字の練習。

中国には古くから「百福図」というものがあります。百種類の異なる書体で書いた「福」を掛軸などに仕立て飾ることで特別な福をもたらされると伝えられてきました。また、「美用の書」の最後の回は、「福」というものをそれぞれにイメージして書き、新年を迎える書として仕立てます。そこから字を飾る意味を考えます。

09:59-10:00:21 夜 (土) 日 92 月 11

を題を書



名前を書く | 5月28日 (土) 夜 17:00-19:30
熨斗を書く | 7月30日 (土) 昼 14:00-16:30
題字を書く | 9月24日 (土) 昼 14:00-17:00
字を飾る | 11月26日 (土) 夜 17:00-19:30
竹筆をつくる | 課外授業 *秋頃を予定

参加費 6,000 円 (材料費込)

定員 6 名 *要予約

持ち物 筆記道具 メモ帳

会場 アトリエミシヨー

京都府京都市北区柴野上門前町 66

お問い合わせ・お申し込み

E-mail kasetsu.ws@gmail.com

ご予約の際には、氏名・電話番号・参加希望講座をお知らせください。

*準備の都合により講座開講2日前以降のキャンセルは、キャンセル料をいただく場合がございます。

*見学無料。お気軽にご相談ください。

題字を書く

9月24日 (土) 昼 14:00-17:00

自分の好きな文庫本をお持ちいただき、その題字を書きます。
その作品を自分がどんなふうにしたのかといった読後の感触を、題字を書くことを通じて表現します。自分が感じ取ったイメージを字のかたちにどう表現するか。そこから書という表現の可能性を考えます。
*書いた題字を用いて、文庫本をハードカバーに仕立て直します。